

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
急性期の成人看護学	2年次	前期	1	16/30	中川

授業概要					
急性期にある患者とその家族を理解し、生命維持の危機的状況に対する看護について学習する。					
回	事前学習	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書をよく読んでくる。	クリティカルケア看護とは 1. クリティカルケア看護の特性 2. クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 クリティカルな患者のアセスメント 1. アセスメントの意義・目的 2. アセスメントの方法 3. 系統別アセスメントの実際 ①呼吸器系 ②循環器系 ③脳・神経系(意識)			講義
2	教科書をよく読んでくる。	クリティカルな患者の主要病態の特徴とケア 1. 課題侵襲を受けた患者の生体反応 2. 栄養障害と栄養管理 3. 呼吸障害とケア 4. 循環障害とケア			講義
3	教科書をよく読んでくる。	5. 脳・神経系障害とケア ①脳・神経系障害の主な症状・主な疾患 6. 凝固・線溶系障害とケア ①播種性血管内凝固の特徴・治療と看護 7. 多臓器障害とケア ①多臓器障害患者の主要臓器障害の特徴・治療と看護 8. 重症感染症とケア 9. 創傷とケア 10. 精神障害(せん妄を中心に)とケア			講義
4	教科書をよく読んでくる。	身体侵襲に伴う手術患者の特徴とケア 1. 外科的侵襲が生体に与える影響 ①外科的侵襲と生体反応 ②手術後に必要な看護 2. 脳神経外科手術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) 3. 心臓血管外科手術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) 4. 肺切除術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) 5. 食道離断・再建術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) 6. 肝切除術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護) 7. 肺移植術後の看護(侵襲と集中治療室での術後の看護)			講義
5	教科書をよく読んでくる。	クリティカルケアの看護実践を支える枠組み 1. クリティカルケア看護と倫理 ①患者の権利と擁護 ②患者の身体拘束 ③インフォームドコンセント ④人格の尊重 ⑤リビングウィルとDNAR・尊厳死 ⑥臓器移植と脳死 ⑦監察医制度 2. クリティカルケア看護と医療チーム ①クリティカルケア看護におけるチーム医療の特殊性 ②チーム医療におけるコミュニケーション ③クリティカルケア看護に関連する病院愛の医療チーム ④クリティカルケア看護にかかわる他職種との連携			講義

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
6	教科書をよく読んでくる。	<p>クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント</p> <p>1. クリティカルケア看護と看護管理</p> <p>①クリティカルケアユニット(集中治療室)の特徴 ②看護ケアの質の保証 ③現認教育</p> <p>2. クリティカルケア看護と安全管理</p> <p>①リスクマネジメント ②クリティカルケア領域に発生しやすい医療事故と医療過誤 ③感染予防</p>	講義
7	教科書をよく読んでくる。	<p>クリティカル看護に必要な看護技術</p> <p>1. 心肺蘇生法</p> <p>①一次救命処置 ②二次救命処置</p> <p>2. 呼吸管理</p> <p>①酸素療法 ②人工呼吸器による呼吸管理 ③気管吸引の技術</p> <p>④カフの管理 ⑤気道浄化と加温加湿 ⑥吸入療法</p> <p>3. 体液・循環管理</p> <p>①輸液の管理 ②体液バランスと循環のモニタリング ③水分出納/バランス ④循環動態のモニタリング</p> <p>4. 栄養・代謝管理</p> <p>①重症患者の栄養管理の目的 ②重症患者の栄養評価の方法 ③栄養管理の実際</p> <p>5. 体温管理</p> <p>①体温管理とは ②体温管理の実際</p>	講義
8	教科書をよく読んでくる。	<p>6. コミュニケーション</p> <p>7. 感染予防対策</p> <p>8. スキンケア</p> <p>9. 口腔ケアとアイケアの技術</p> <p>10. 体位変換・関節可動域訓練</p> <p>11. 疼痛と緩和ケア</p> <p>12. 廃用症候群の予防と早期リハビリテーション</p> <p>13. 摂食・嚥下促進</p> <p>14. 危機的状態にある患者・家族へのケア</p>	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	<p>医学書院:系統看護学講座 クリティカルケア看護</p> <p>医学書院:系統看護学講座 脳・神経</p> <p>医学書院:系統看護学講座 呼吸器</p> <p>医学書院:系統看護学講座 循環器</p> <p>医学書院:系統看護学講座 消化器</p> <p>メディックメディア:看護がみえるvol. ② 臨床看護技術</p>		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
急性期の成人看護学	2年次	前期	1	14/30	堀田

授業概要
急性期にある患者とその家族を理解し、生命維持の危機的状況に対する看護について学習する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
9	教科書をよく読んでくる。	救急看護の概念 1. 救急看護とは 2. 救急医療体制 3. 救急看護の場 4. 救急看護と法的・倫理的側面 救急看護の対象の理解 1. 救急患者の特徴 2. 救急患者家族の特徴 救急看護体制と看護の展開 1. 初期・第二次救急医療における対応 2. 第三次救急医療における対応 3. 院内急変時における対応 4. 在宅療養における対応 5. 学校保健における対応 6. 災害時における対応	講義
10		心肺蘇生の演習 呼吸管理の演習	演習
11		心肺蘇生の演習 呼吸管理の演習	演習
12	教科書をよく読んでくる。	救急患者の観察とアセスメント 1. 周囲の状況確認とスタンダードプリコーション 2. 全身と外観の観察とアセスメント 3. 緊急検査 4. 脳・神経系 5. 呼吸器系 6. 循環器系 7. 消化器系 8. 泌尿器・生殖器系 9. 筋・骨格系 10. 内分泌代謝系 11. 精神状態	講義
13	教科書をよく読んでくる。	主要病態に対する救急処置と看護 1. 心肺停止状態への対応 2. 意識障害への対応 3. 呼吸障害への対応 4. ショック・循環障害への対応 5. 急性腹症への対応 6. 泌尿器・生殖器障害への対応	講義
14	教科書をよく読んでくる。	7. 体液・代謝異常への対応 8. 体温異常への対応 9. 外傷への対応 10. 熱傷への対応 11. 中毒への対応 12. 溺水への対応 13. 刺咬症への対応 14. 精神症状への対応 15. 脳死状態への対応	講義
15	教科書をよく読んでくる。	救急時の看護技術 1. 救急患者の搬送 2. 止血法 3. 酸素投与 4. 人工呼吸 5. 気管切開 6. 血管確保 7. 輸液と輸血 8. 心電図モニター 9. 観血的動脈圧モニター 10. 膀胱内留置カテーテル 11. 胃管挿入・胃洗浄 12. 穿刺 13. 整復固定と牽引 14. 創傷処置 15. 開胸心マッサージ 救急時に使用される医薬品 1. 救急時の医薬品使用時の注意点 2. 救急時に使用するおもな医薬品	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 救急看護学 医学書院:系統看護学講座 脳・神経 医学書院:系統看護学講座 呼吸器 医学書院:系統看護学講座 循環器 医学書院:系統看護学講座 腎・泌尿器 医学書院:系統看護学講座 女性生殖器 メディックメディア:看護がみえるvol. ② 臨床看護技術		

授業科目 リハビリテーション・回復期の成人看護学	開講年次 2年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 岩尾
-----------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要					
リハビリテーションとは、全人間的復権であるという視点で理解するとともに、リハビリテーション看護の概論および運動器系・中枢神経系・循環器系の疾患をとおしてリハビリテーション看護の実践について学ぶ。また、回復期(移行期)にある対象の理解と、回復期(移行期)の看護について学ぶ。					
回	教科書頁	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書(リハビリテーション看護) p60～84	リハビリテーション看護概論 3)リハビリテーション看護の方法 (1)看護師が対応する障害の範囲 (2)アセスメント (3)援助方法			講義 (岩尾)
2	教科書 (リハビリテーション看護) p281～301	循環器系の障害とリハビリテーション看護(虚血性心疾患) 1)虚血性心疾患の病態・治療 2)虚血性心疾患のリハビリテーションプログラム 3)虚血性心疾患のリハビリテーション看護 4)合併症の予防と管理			講義 (岩尾)
3	教科書 (経過別看護) p112～138	回復期(移行期)にある患者の看護 1)回復期(移行期)にある患者の特徴 (1)回復期(移行期)とは (2)リハビリテーションの理解(1・2回目授業の復習) (3)心身の特徴(対象の理解) (4)治療の特徴と患者への影響および将来の生活修正の特徴 (5)ライフサイクルへの影響 (6)家族・集団・社会への影響			講義 (岩尾)
4	教科書 (経過別看護) p139～167	回復期(移行期)の看護に用いられる概念・理論 ①エンパワメント ②生活の質(QOL) ③役割理論 ④家族理論 患者の回復を促す看護 (1)回復期(移行期)にある患者の看護とその根拠 ①体力の回復・2次的障害の予防 ②セルフケア行動の確立の促進 ③退院後の生活に向けたケア計画 ④患者・家族が疾患や障害に適応するための援助			講義 (岩尾)
5	教科書 (成人看護学総論) p356～389	4)退院支援の看護技術 (1)退院支援とはどのような活動か ①退院支援とは何か ②退院支援におけるチームアプローチと看護師の役割 (2)退院支援が必要とされる理由 ①医療提供体制・諸制度の変化 ②患者と家族にとっての入院と退院の意味 ③退院に向けた看護援助の必要性 (3)退院支援具体的方法 ①退院支援方法の具体的な考え方 ②退院支援のすすめ方 ③退院支援活動の実施 ④退院支援の評価			講義 (岩尾)
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院:系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院:系統看護学講座 循環器 メヂカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護				

授業科目 リハビリテーション・回復期の成人看護学	開講年次 2年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 岡本
-----------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要
 リハビリテーションとは、全人間的復権であるという視点で理解するとともに、リハビリテーション看護の概論および運動器系・中枢神経系・循環器系の疾患をとおしてリハビリテーション看護の実践について学ぶ。また、回復期(移行期)にある対象の理解と、回復期(移行期)の看護について学ぶ。

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
6	教科書 (リハビリテーション看護) p2～p37	リハビリテーション概論 1)リハビリテーションの定義と理念 2)リハビリテーションの対象と制度 (1)障害者の定義 (2)障害者を支える制度 3)疾病・障害・生活機能の分類 (1)国際疾病分類(ICD) (2)国際障害分類(ICIDH) (3)国際生活機能分類(ICF) 4)リハビリテーションの分類 (1)医学的リハビリテーション (2)教育的リハビリテーション (3)職業的リハビリテーション (4)社会的リハビリテーション 5)リハビリテーション医療の提供 (1)経過別にみるリハビリテーション ①急性期 ②回復期 ③維持期 ④終末期 (2)連携職種 (3)多職種連携のあり方	講義 (岡本)
7	教科書 (リハビリテーション看護) p40～60	リハビリテーション看護概論 1)リハビリテーション看護の定義と専門化 2)リハビリテーション看護の対象 ①障害者に対する態度 ②障害者の体験 ③家族の体験	講義 (岡本)
8	教科書 (リハビリテーション看護) p88～115	運動器系の障害とリハビリテーション(骨折) 1)骨折の病態・治癒過程と治療 2)骨折のリハビリテーションプログラム 3)障害とリハビリテーション看護 (1)末梢神経障害 (2)関節拘縮 (3)筋萎縮	講義 (岡本)
9	教科書 (リハビリテーション看護) p116～133	運動器系の障害とリハビリテーション(関節リウマチ) 1)関節リウマチの病態・治療 2)関節リウマチのリハビリテーションプログラム 3)関節リウマチのリハビリテーション看護	講義 (岡本)
10	教科書 (リハビリテーション看護) p226～259	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(脊椎損傷) 1)脊椎損傷の病態・治療 2)脊椎損傷のリハビリテーションプログラム 3)障害とリハビリテーション看護	講義 (岡本)

評価方法 講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。

教科書 医学書院:系統看護学講座 リハビリテーション看護
 医学書院:系統看護学講座 成人看護学総論
 医学書院:系統看護学講座 運動器
 医学書院:系統看護学講座 脳神経
 メヂカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護

授業科目 リハビリテーション・回復期の成人看護学	開講年次 2年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 榎本
-----------------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要					
リハビリテーションとは、全人間的復権であるという視点で理解するとともに、リハビリテーション看護の概論および運動器系・中枢神経系・循環器系の疾患をとおしてリハビリテーション看護の実践について学ぶ。また、回復期(移行期)にある対象の理解と、回復期(移行期)の看護について学ぶ。					
回	教科書頁	授業計画・授業内容			授業方法
11	教科書 (リハビリテーション看護 p136～175)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(脳血管障害) 1)脳血管障害の病態と治療 (1)一過性脳虚血発作(TIA) (2)脳梗塞 (3)脳出血 2)脳血管障害のリハビリテーションプログラム			講義 (榎本)
12	教科書 (リハビリテーション看護 p175～196)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(脳血管障害) 3)障害とリハビリテーション看護 (1)意識障害 (2)運動障害 (3)構音障害 (4)摂食・嚥下障害			講義 (榎本)
13	教科書 (リハビリテーション看護 p176～196)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(脳血管障害) 3)障害とリハビリテーション看護 (5)失語 (6)失認 (7)失行 (8)記憶障害 (9)排尿障害 (10)排便障害 (11)性機能障害 4)再発作・転倒の予防と管理			講義 (榎本)
14	教科書 (リハビリテーション看護 p196～226)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護(パーキンソン病) 1)パーキンソン病の病態・治療 2)パーキンソン病のリハビリテーションプログラム 3)障害とリハビリテーション看護			講義 (榎本)
15	教科書 (経過別看護) p167～185	回復期(移行期)看護の実践 1)患者のADL評価とセルフケア確立の援助 (1)さまざまなADL評価尺度 (2)看護師の行うADLアセスメントの特徴 (3)援助事例 2)障害による身体喪失感、心理的反応へのアプローチ (1)患者心理の理解の要点 (2)援助事例			講義 (榎本)
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。			
教科書		医学書院:系統看護学講座 リハビリテーション看護 医学書院:系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院:系統看護学講座 運動器 医学書院:系統看護学講座 脳神経 医学書院:系統看護学講座 循環器 メヂカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護			

授業科目 慢性期の成人看護学	開講年次 2年次	開講期 前期	単位数 1	時間数 30	講師 増田・橋本 越沼
-------------------	-------------	-----------	----------	-----------	-------------------

授業概要

慢性期における患者の特徴と看護を理解し、自己管理を必要とする患者と看護について学習する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書を読んでおく	慢性疾患がある人と家族の理解 1)地域における生活者としての患者・家族の基本理解 2)慢性期にある人々の理解 3)慢性期にある人と家族の理解	講義
2	教科書を読んでおく	慢性期看護の理解 1)慢性期看護の機能・役割 2)慢性期看護の場の例 3)慢性期にある人の療養支援における多職種連携と看護の役割	講義
3	教科書を読んでおく	慢性期看護で用いられる理論 1)危機理論 2)モースの病気体験における希望と苦悩の理論 3)病みの軌跡モデル 4)ライフストーリーの理論	講義
4	教科書を読んでおく	慢性期看護の展開 1)健康学習支援を中心とした看護の一般的展開	講義
5	教科書を読んでおく	慢性期看護の展開 2)急性増悪の予防と症状緩和を中心とした看護の一般的展開 3)急性増悪の予防と精神的支援を中心とした看護の一般的展開	講義
6	教科書を読んでおく	慢性期にある人・家族への看護 1)慢性閉塞性肺疾患 2)慢性心不全	講義
7	教科書を読んでおく	慢性期にある人・家族への看護 3)脳梗塞後遺症 4)パーキンソン病	講義
8	教科書を読んでおく	慢性期にある人・家族への看護 5)慢性腎臓病 6)透析療法	講義
9	教科書を読んでおく	慢性期にある人・家族への看護 7)2型糖尿病	講義
10	教科書を読んでおく	慢性期にある人・家族への看護 8)全身性エリテマトーデス 9)関節リウマチ	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学総論 メディカルフレンド社:経過別成人看護学③ 慢性期看護 メディカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護 医学書院:系統看護学講座 成人看護学②呼吸器 医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝 医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑦脳神経 医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器 メディックメディカ:看護がみえるvol. ②臨床看護技術		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
慢性期の成人看護学	2年次	前期	1	30	小川

授業概要			
慢性期における患者の特徴と看護を理解し、自己管理を必要とする患者と看護について学習する。			
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
11	教科書を読んでおく	自己血糖値測定 尿糖測定	演習
12	教科書を読んでおく	事例を通して慢性期疾患患者の援助を考える。	演習
13	教科書を読んでおく	事例を通して慢性期疾患患者の援助を考える。	演習
14	教科書を読んでおく	事例を通して慢性期疾患患者の援助を考える。	演習
15	教科書を読んでおく	事例を通して慢性期疾患患者の援助を考える。	演習
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 成人看護学総論 メヂカルフレンド社:経過別成人看護学③ 慢性期看護 メヂカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護 医学書院:系統看護学講座 成人看護学②呼吸器 医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝 医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑦脳神経 医学書院:系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器 メディックメディカ:看護がみえるvol. ②臨床看護技術		

授業科目 終末期の成人看護学	開講年次 2年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 30	講師 金子・三井 橋本
-------------------	-------------	-----------	----------	-----------	-------------------

授業概要

終末期における患者の特徴と看護を理解し、生を支える看護と終末期医療の現状を学習する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書を読んでおく	終末期にある患者の特徴 ①身体的特徴 ②心理的特徴 ③社会的特徴 ④霊的特徴 全人的苦痛・霊的苦痛の理解	講義 グループ ワーク
2	教科書を読んでおく	終末期にある家族の特徴 1) 家族の精神的苦痛・社会的苦痛 2) 死別と悲嘆反応 3) 死別後の家族の生活上の変化	講義 グループ ワーク
3	教科書を読んでおく	告知 ホスピスとは グリーフケア QOL インフォームドコンセント 全人的苦痛の緩和と日常生活援助	講義
4	教科書を読んでおく	緩和ケア 疼痛コントロール(麻薬・鎮痛薬)	講義
5	教科書を読んでおく	患者を取り巻くサポートシステム 家族に対する援助 ①家族の危機 ②家族のニーズ ③喪失と悲嘆のプロセス	講義
6	教科書を読んでおく	脳死・安楽死・尊厳死	講義
7	教科書を読んでおく	危篤時の看護	講義
8	教科書を読んでおく	死後の処置	演習
9	教科書を読んでおく	肺がん患者の身体的苦痛 1) がん患者の痛みの特徴とアセスメント ①疼痛 ②倦怠感 ③呼吸困難 2) がん性疼痛に対する処置とケア	講義 グループ ワーク
10	教科書を読んでおく	肺がん患者の心理・社会的苦痛と援助	講義
11	教科書を読んでおく	看護の実際 1) 予期せぬ悲嘆への援助 2) 苦痛・不安への援助 3) 自己概念の障害への援助 4) がん患者の家族への援助	講義

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
12	教科書を読んでおく	1. 放射線診断での看護の役割 1)放射線診断における看護の役割 2)放射線診断検査を受ける患者指導 3)検査前の看護 4)検査中の看護 5)検査後の看護 6)コンピュータ断層撮影の看護 7)超音波による診断と看護 8)磁気共鳴画像(MRI)による診断の看護 9)ラジオアイソトープによる診断の看護	講義
13	教科書を読んでおく	2. 放射線治療での看護の役割 1)放射線治療の原理と安全を考えた看護 2)放射線治療を進めるための看護の実際 3)放射線治療と併用の化学療法の看護	講義
14	放射線療法を必要とする疾患について	化学療法受ける患者への看護 1)化学療法の対象、特徴 2)化学療法を受ける対象への援助 ①日常生活への援助 ②教育的支援 ③心理社会的支援 ④家族への援助	講義
15	化学療法を必要とする疾患について	化学療法受ける患者への看護 1)化学療法の対象、特徴 2)化学療法を受ける対象への援助 ①日常生活への援助 ②教育的支援 ③心理社会的支援 ④家族への援助	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト等で総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 がん看護学 医学書院:系統看護学講座 緩和ケア メヂカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護		

授業科目 成人の看護過程	開講年次 2年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 30	講師 山崎
-----------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要

成人看護学概論、各病期の成人看護学で学んだ知識を統合し、紙上事例から看護過程の展開方法を学習する。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1	課題レポートの提出	・看護過程とは ・看護過程の展開の方法、使用用紙の説明 ・成人の成長発達課題	講義	復習	
2	事例の病態生理・急性期の看護を調べる	・各病期の看護の特徴 ・急性期の患者の事例紹介 ・胃がんの病態生理	講義	復習	
3	全身麻酔・術後合併症を調べる	・情報整理	講義 演習	復習	
4	前回授業の不明・疑問の確認	・情報の分析・解釈	講義 演習	復習	
5	前回授業の不明・疑問の確認	・看護計画の立案	講義 演習	・看護計画用紙の提出 ・課題レポートの提出	
6	事例の病態生理・回復期の看護を調べる	・回復期の患者の事例紹介 ・人工肛門造設患者	講義 演習	復習	
7	前回授業の不明・疑問の確認	・情報整理	講義 演習	復習	
8	前回授業の不明・疑問の確認	・情報の分析・解釈	講義 演習	復習	
9	前回授業の不明・疑問の確認	・情報の分析・解釈	発表	復習	
10	前回授業の不明・疑問の確認	・看護計画の立案	演習	看護計画用紙・課題レポートの提出	
11	事例の病態生理・慢性期の看護を調べる	・慢性期の患者の事例紹介 ・脳梗塞の病態生理	演習	復習	
12	前回授業の不明・疑問の確認	・情報整理	演習	復習	
13	前回授業の不明・疑問の確認	・情報の分析・解釈	演習	復習	
14	前回授業の不明・疑問の確認	・情報の分析・解釈	演習	復習	
15	前回授業の不明・疑問の確認	・看護計画の立案	演習	・看護計画用紙の提出 ・課題レポートの提出	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト等で総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 クリティカルケア看護 医学書院:救急看護学 メジカルフレンド社:経過別成人看護学③ 慢性期看護 メジカルフレンド社:臨床看護学叢書 経過別看護 その他:講師指定のもの				

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
老年の日常生活援助技術	2年次	前期	1	30	大貫

授業概要					
加齢が心身に及ぼす影響を理解し、老年期にある人々の健康レベル、生活状況に応じた看護援助を行うための基本的な知識、技術を学ぶ。					
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1	・老年看護学概論の復習をしておく	1. 高齢者の生活 1) 高齢者の機能と評価 (1) 国際生活機能分類(ICF) (2) 高齢者総合機能評価(CGA) (3) 日常生活動作(ADL) ①バーセルインデックス ②カツインデックス (4) 手段的日常生活動作(IADL) (5) 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準 (6) 認知症高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準	講義		
2	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・環境について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 1) 住環境 (1) 自宅における住環境 (2) 住環境のアセスメント (3) 施設における住環境	講義		
3	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・姿勢について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 2) 歩行、移動、姿勢保持 (1) 歩行、移動、姿勢保持のための援助 (2) 転倒・転落の発生の要因 (3) 転倒・転落の防止 (4) 転倒の影響	講義		
4	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・飲食について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 3) 食生活 (1) 嚥下能力・嗜好性・環境に応じた食生活の援助 (2) 摂食・嚥下障害 ①加齢による病態と要因 ②アセスメント ③予防と援助 (3) 低栄養 ①加齢による病態と要因 ②アセスメント ③予防と援助	講義		
5	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・排泄について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 3) 排泄 (1) 排泄能力の変化に応じた援助 (2) 尿失禁 ①加齢による病態と要因 ②アセスメント ③予防と援助 (3) 自宅でオムツ内で排泄をする	講義		
6	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・排泄について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 4) 排泄 (3) 便秘・下痢 ①加齢による病態と要因 ②アセスメント ③予防と援助	講義		

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
7	・該当する範囲の教科書を読んでおく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 4) 排泄 (4) オムツ交換 (5) ポータブルトイレ介助	講義	
8	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・清潔・身だしなみについて学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 4) 清潔・身だしなみ (1) 清潔・身だしなみの行為 (2) 更衣動作 (3) 入浴行動に伴う危険性、負担に応じた清潔・衣生活の援助	講義	
9	・該当する範囲の教科書を読んでおく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 5) 清潔・身だしなみ (1) 口腔ケア (2) 義歯の取り扱い	講義	口腔ケアの意義と具体的方法をまとめる。
10	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・活動・休息について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 6) 活動と休息 1) 生活リズムの調整 2) 睡眠障害 ① 加齢による病態と要因 ② アセスメント ③ 予防と援助	講義	
11	・該当する範囲の教科書を読んでおく ・活動・休息について学習しておく	2. 高齢者の生活機能を支える看護 7) 活動と休息 3) せん妄 ① 加齢による病態と要因 ② アセスメント ③ 予防と援助	講義	
12	授業の復習をしておく	3. 高齢者類似体験 1) 高齢者の日常生活の体験 (1) 移乗動作や移動動作、排泄動作の体験を通して (2) 食事動作や服薬の体験を通して (3) 清潔動作の体験を通して (4) 更衣・整容の体験を通して (5) 感覚機能の低下の体験を通して(主に視覚と聴覚) 2) 高齢者の日常生活の援助の在り方について考える 3) グループ内で話し合い、発表し意見交換をして考えを共有する	講義	
13			講義	
14	該当する範囲の教科書を読んでおく	高齢者に特徴的な症状のアセスメントと看護 【褥瘡】 課題に対してグループ学習＋発表	講義	
15			講義	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト等で総合的に評価する。			
教科書	医学書院: 系統看護学講座 老年看護学			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
老年看護学方法論	2年次	後期	1	30	安田 小川

授業概要

老年期に多い疾患の特徴や症状のアセスメントについて理解する。また、老年期にある人の健康障害の特徴と診断、治療過程における看護について学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	教科書参考頁
1	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく ・臨床看護総論 経過別看護の関連事項を学習しておく	1. 老年病とは 2. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護 (1) 検査を受ける高齢者の看護 (2) 薬物治療を受ける高齢者の看護	講義	老年看護学 P318～326 病態・疾患論 P272～278
2		(3) 手術療法を受ける高齢者の看護	講義	上記同様
3	・臨床看護総論の関連事項を学習しておく ・経過別看護の関連事項を学習しておく	2. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護 (4) 急性期の高齢者への看護 ① 急性期の高齢者の特徴 ② 手術療法以外の急性期の高齢者の援助 (5) 回復期の高齢者への看護 ① 回復期の高齢者の特徴 ② 生活機能の維持と向上 ③ リハビリテーションを受ける高齢者の援助	講義	急性期： 老年看護学 P395～397 回復期： 老年看護学 P334～338 病態・疾患論 P284～288
4	臨床看護総論の関連事項を学習しておく	2. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護 (6) 慢性期の高齢者への看護 ① 慢性期の高齢者の特徴 ② 慢性期の高齢者の援助	講義	老年看護学 P365～373 病態・疾患論 P9
5	臨床看護総論の関連事項を学習しておく	2. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護 (7) エンド・オブ・ライフ・ケア ① 身体徴候のアセスメントと援助 ② 苦痛の緩和と安楽への援助 ③ 精神的苦痛や混乱に対する援助 ④ 臨死期の評価と援助 ⑤ 家族の参加と家族へ援助 ⑥ グリーフケア	講義	老年看護学 P348～358
6		3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 1) 廃用症候群 ① 加齢による病態と要因 ② アセスメント ③ 予防と援助	講義	老年看護学 P142～146
7	高齢者の食行動について復習しておく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 2) 視覚障害・聴覚障害 ① 加齢による病態と要因 ② アセスメント ③ 予防と援助	講義	老年看護学 P97～102 視覚障害： 病態・疾患論 P30～34 P251～254 聴覚障害： P30～34 P254～256
8	教科書を読んでおく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 3) 皮膚の障害(かゆみ) ① 加齢による病態と要因 ② アセスメント ③ 予防と援助	講義	老年看護学 P94～97 病態・疾患論 P240～250

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	教科書参考頁
9	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 4) 認知症 1)加齢による病態と要因 2)環境と行動・心理症状 3)認知機能の評価 4)予防治療、療法的アプローチ 5)コミュニケーション方法、療養環境の調整 6)家族への支援とサポートシステム	講義	老年看護学 P296～315 病態・疾患論 P26～30 P135～150 P300～302
10	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 5) うつ病 ①加齢による病態と要因 ②症状と生活への影響のアセスメント ③予防・治療と援助	講義	老年看護学 P282～288 病態・疾患論 P73 P161～164
11	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 6) パーキンソン病(症候群) ①加齢による病態と要因 ②症状と生活への影響のアセスメント ③予防・治療と援助	講義	老年看護学 P267～269 病態・疾患論 P159～160
12	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 7) 骨粗鬆症・骨折 ①加齢による病態と要因 ②症状と生活への影響のアセスメント ③予防・治療と援助	講義	老年看護学 P275～282 病態・疾患論 P42～43 骨粗しょう症 P237～240 骨折: P73～77 P230～232
13	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	3. 高齢者に特有な症状・疾患・障害と看護 8) 感染症 ①加齢による疾患の特徴と要因 ②症状と生活への影響のアセスメント ③予防・治療と援助	講義	老年看護学 P265～269
14	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	4. 治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護 1) 高齢者の家族の健康と生活への影響 (1) 家族システムのアセスメント (2) 介護への適応のための援助	講義	老年看護学 P373～382
15	・該当する範囲の教科書を読んで予習しておく	5. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 病院・施設におけるリスクマネジメント 4) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際	講義	老年看護学 P388～395
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テスト等で総合的に評価する。			
教科書	医学書院:系統看護学講座 老年看護学 医学書院:系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
老年の看護過程	2年次	後期	1	15	大貫

<p>授業概要</p> <p>老年期に罹患しやすい疾患の事例を用いて看護過程の展開について学ぶ。</p>
--

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	1年次の講義を復習し出席する	1. 看護過程とは 2. 看護過程の展開方法 ①情報収集 ②情報の整理 ③問題点の抽出 ④優先順位の決定 ⑤看護計画立案 ⑥実施 ⑦評価・修正など今までの学習の復習 3. 老年者の特徴と成長発達課題	講義	看護過程について整理しておく
2	事例の疾患について調べておく	4. 事例の病態生理・検査・治療および看護	講義	復習
3	事前に配布していた事例について読み、疑問があれば整理しておく。	5. 看護過程展開 1)記録用紙の使い方を説明する 2)情報の整理をする	演習	情報の整理をする
4		5. 看護過程展開 1)情報の整理 2)充足未充足の判断	演習	充足未充足を判断する
5		5. 看護過程展開 1)情報の分析・解釈	演習	情報の分析・解釈をする
6		5. 看護過程展開 1)看護問題の抽出・優先順位の決定 2)看護目標の設定	演習	看護問題と目標を設定する
7		5. 看護過程展開 1)具体策の立案	演習	具体策を立案する
8		6. 老年看護過程まとめ	演習	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物で総合的に評価する			
教科書	講師資料 講師の指示したものを用意する			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
健康増進のための小児の看護	2年次	前期	1	30	折田

授業概要					
小児各期の成長・発達を理解したうえで、子どもとその家族に対して、成長・発達に合わせた日常生活の援助、子どもの遊び・学習について学習する。また、安全・事故防止をふまえて小児看護技術を学ぶ内容とする。					
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1	教科書の予習	小児各期の成長・発達について(新生児期・乳児期) 形態的成長・機能的成長・精神運動的発達	講義	復習	
2	教科書の予習	小児各期の成長・発達について(幼児期) 形態的成長・機能的成長・精神運動的発達	講義	復習	
3	教科書の予習	小児各期の成長・発達について(学童期・思春期) 形態的成長・機能的成長・精神運動的発達	講義	復習	
4	成長・発達の復習	小児各期の日常生活援助(新生児・乳児期) 環境・栄養・排泄・睡眠・清潔・衣服・安全・遊び	講義	復習	
5	教科書の予習	小児各期の日常生活援助(新生児・乳児期) 小児看護技術①(おむつ交換・更衣)	講義 演習	小児期の成長発達を表にまとめる	
6	教科書の予習	小児各期の日常生活援助(新生児・乳児期) 小児看護技術②(授乳・離乳食)	演習	復習	
7	成長発達の復習	小児各期の日常生活援助(幼児期) 環境・栄養・排泄・睡眠・清潔・衣服・安全・遊び	講義 演習	復習	
8	成長発達の復習	小児各期の日常生活援助(学童期・思春期) (学童期)栄養・睡眠・清潔・安全・学習と遊び	講義	復習	
9	成長発達の復習	小児各期の日常生活援助(学童期・思春期) (思春期)栄養・睡眠・安全・生活指導・性教育	講義	復習	
10		小児看護技術③(遊びと学習の援助)	演習 グループワーク	復習	
11		小児の安全を守る看護	グループワーク	復習	
12	教科書の予習	小児の身体計測・バイタルサイン測定	講義	練習しておく	
13		小児看護技術④(安全・プレパレーション)	演習	練習しておく	
14		小児看護技術⑤(身体計測)	演習	練習しておく	
15		小児看護技術⑤(バイタルサイン測定)	演習	練習しておく	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院:系統看護学講座 小児看護学(1) 小児看護学概論・小児臨床看護総論 インターメディカ:写真でわかる小児看護技術				

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
健康障害のある小児の看護	2年次	後期	1	30	高木

授業概要					
子どもに見られる主な疾患と検査・治療を学ぶ。入院によって影響を及ぼす問題をとりえ、様々な健康障害の子どもと共に生活する家族を理解し、子どもの健康状態に応じた病気の子どもの家族への看護の方法を学ぶ。					
回	教科書頁	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書 (小児臨床看護各論) p6~15 p66~84	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 ①常染色体異常(ダウン症候群・18トリソミー・13トリソミー) ②性染色体異常(クラインフェルター症候群・ターナー症候群) 代謝性疾患と検査・治療 ①新生児マス・スクリーニング(タンデムマス法) ②先天代謝異常症			講義 (医師)
2	教科書 (小児臨床看護各論) p86~101	内分泌疾患と検査・治療 ①下垂体疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長) ②甲状腺疾患(先天性甲状腺機能低下症[クレチン症]) ③副腎疾患(クッシング症候群) ④性分化疾患			講義 (医師)
3	教科書 (小児臨床看護各論) p104~165	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と検査・治療 ①アレルギー性疾患(食物アレルギー・気管支喘息) ②原発性免疫不全症 ③リウマチ疾患(若年性特発性関節炎・全身性エリテマトーデス) ④感染症(ウイルス感染症・細菌感染症・真菌感染症)			講義 (医師)
4	教科書 (小児臨床看護各論) p224~267	感染症と検査・治療 ①ウイルス感染症(麻疹・風疹・伝染性紅斑・突発性発疹・単純ヘルペスウイルス感染症・水痘・帯状疱疹・手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱[プール熱]・流行性耳下腺炎・インフルエンザ・急性灰白髄炎[ポリオ]・ギラン-バレー症候群・日本脳炎・後天性免疫不全症候群[エイズ]) ②細菌感染症(百日咳・ジフテリア・ブドウ球菌感染症・溶血性レンサ球菌感染症・細菌性赤痢・病原性大腸感染症) ③真菌感染症(カンジダ症)			講義 (医師)
5	教科書 (小児臨床看護各論) p224~220	呼吸器疾患と検査・治療 ①上気道の疾患(急性咽頭炎・クループ症候群) ②気管支・肺疾患(気管支炎・肺炎) 循環器疾患と検査・治療 ①先天性心疾患 左右短絡群(心室中隔欠損・心房中隔欠損・房室中隔欠損症・動脈開存症) 右左短絡群(フォロー四徴症) ②川崎病 ③突然死			講義 (医師)
6	教科書 (小児臨床看護各論) p224~266	消化器疾患と検査・治療 ①唇裂・口蓋裂 ②食道閉鎖症 ③ヒルシュスプルング病 ④鎖肛 ⑤急性虫垂炎 ⑥腸重積 ⑦外鼠径ヘルニア ⑧胆道閉鎖症 ⑨ロタウイルス感染症			講義 (医師)

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
7	教科書 (小児臨床 看護各論) p332～360	血液・造血器疾患と検査・治療 ①出血性疾患(先天性血液凝固異常[血友病]・後天性血液凝固異常[ビタミンK]欠乏症) ②特発性血小板減少性紫斑病 悪性新生物と検査・治療 ①小児がん(診断と予後・治療の原則と支持療法) ②急性リンパ性白血病・急性骨髄性白血病 ③神経芽腫	講義 (医師)
8	教科書 (小児臨床 看護各論) p278～327	腎・泌尿器疾患と検査・治療 ①糸球体疾患(ネフローゼ症候群) ②慢性腎臓病 ③急性腎障害	講義 (医師)
9	教科書 (小児臨床 看護各論) p374～396	神経疾患と検査・治療 ①先天異常(水頭症) ②けいれん性疾患(てんかん) ③脳性まひ ④急性神経疾患(ウイルス性脳炎・無菌性髄膜炎) ⑤小児の言語障害 ⑥筋疾患(筋ジストロフィー)	講義 (医師)
10	教科書 (小児臨床 看護各論) p412～445	運動器疾患 ①先天性疾患(先天性股関節脱臼・先天性内反足) ②骨折 ③成長痛 皮膚疾患 ①母斑 ②湿疹・皮膚炎群 ③蕁麻疹 ④伝染性軟属腫 ⑤尋常性疣贅 ⑥細菌性皮膚疾患 ⑦皮膚真菌症	講義 (医師)
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	医学書院:系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
健康障害のある小児の看護	2年次	後期	1	30	吉田

授業概要					
子どもに見られる主な疾患と検査・治療を学ぶ。入院によって影響を及ぼす問題をとらえ、様々な健康障害の子どもと共に生活する家族を理解し、子どもの健康状態に応じた病気の子どもの家族への看護の方法を学ぶ。					
回	教科書頁	授業計画・授業内容			授業方法
1	教科書 (小児臨床総論) p202～214 p218～234	病気や障害を持つ子どもと家族の看護 1) 病気や障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護			講義
2	教科書 (小児臨床総論) p250～280	子どもにおける疾病の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 2) 急性期にある子どもと家族の看護 3) 周手術期の子どもと家族の看護 4) 終末期にある子どもと家族の看護			講義
3	教科書 (小児臨床総論) p342～409	症状を示す子どもの看護 1) 不きげん 2) 啼泣 3) 痛み 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) ショック 7) 意識障害 8) けいれん 9) 発熱 10) 嘔吐 11) 下痢 12) 便秘 13) 脱水 14) 浮腫 15) 出血 16) 貧血 17) 発疹 18) 黄疸			講義
4	教科書 (小児臨床総論) p412～453 p460～474	検査・処置を受ける子どもの看護 1) 検査・処置総論 2) 薬物動態と約容量の決定 3) 検査・処置各論 ① 与薬 ② 輸液管理 ③ 抑制 ④ 検体採取 ⑤ 呼吸状態の緩和 ⑥ 救命処置			講義
5	教科書 (小児臨床総論) p478～504	障害のある子どもと家族の看護 1) 障害の捉え方 2) 障害のある子どもと家族の特徴 3) 障害のある子どもと家族の社会支援 子どもの虐待と看護 1) 子どもの虐待の現状と対策の経緯 2) 子どもの虐待とは 3) リスク要因と発生予防・早期発見 4) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 5) 求められるケア			講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。				
教科書	医学書院: 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床総論 医学書院: 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論				

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
小児看護学方法論	2年次	後期	1	15	久保田

授業概要

看護過程の授業を振り返りながら、事例を通して、健康障害のある小児と家族への看護をグループで検討しながら看護の必要性をとらえる内容とする。また小児看護に必要なとされる主な基本的技術について習得する

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	技術の本を読んでくる	小児看護に必要な基本的技術 ①採尿・与薬・注射・輸液療法	演習	ノート作成
2	技術の本を読んでくる	小児看護に必要な基本的技術 ②罨法・吸引・酸素療法	演習	ノート作成
3	技術の本を読んでくる	健康障害のある小児と家族の看護過程の展開① (子どもに多い事例を取り上げ、子どもの急性症状による苦痛や入院適応への援助、家族の不安が考えられる事例展開をする)	演習	ノート作成
4	看護過程の復習 疾患の復習	健康障害のある小児と家族の看護過程の展開① (子どもに多い事例を取り上げ、子どもの急性症状による苦痛や入院適応への援助、家族の不安が考えられる事例展開をする)	講義	課題の実施
5	課題を提出する	健康障害のある小児と家族の看護過程の展開② (各自事例について書いてくる)	演習	グループで話しあい、まとめる
6	課題を提出する	健康障害のある小児と家族の看護過程の展開③ 各自書いてきた内容をもとにグループで検討する (検討課題を発表する)	演習	グループで話しあい、まとめる
7	課題を提出する	健康障害のある小児と家族の看護過程の展開④ (検討課題のディスカッション・発表)	演習	グループで話しあい、まとめる
8	課題を提出する	健康障害のある小児と家族の看護過程の展開⑤ (まとめ)	演習	グループで話しあい、まとめる

評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物等で総合的に評価する。
教科書	医学書院:系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床総論 医学書院:系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 インターメディカ:写真でわかる小児看護技術

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
ライフサイクル期の母性看護学	2年次	前期	1	30	柴田

授業概要					
女性のライフサイクル各期における健康と健康障害について学ぶ。主な教授内容として、女性の健康と健康障害を身体的・精神的・社会的側面から捉え、治療と看護について学ぶ内容とする。					
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1	生殖器の解剖生理を学習しておく	1. 女性のライフサイクルと健康 1)性周期と女性の健康 2)性差と女性の健康 3)女性とメンタルヘルス 2. ライフステージ各期の健康問題と看護	講義	授業内容をノートにまとめる	
2		3. 思春期の健康と看護 1)思春期の身体的・心理的・社会的特徴 2)健康問題と看護 ①月経異常 ②性感染症 ③妊娠	講義	授業内容をノートにまとめる	
3		4. 成熟期の健康と看護 1)成熟期の身体的・心理的・社会的特徴 2)健康問題と看護 ①月経随伴症状 ②子宮筋腫 ③子宮内膜症 ④生殖器悪性腫瘍	講義	授業内容をノートにまとめる	
4		5. 更年期の健康と看護 1)更年期の身体的・心理的・社会的特徴 2)健康問題と看護 ①更年期障害 ②尿失禁 ③骨粗しょう症 ④更年期女性のうつ	講義	授業内容をノートにまとめる	
5		6. 老年期の健康と看護 1)老年期の身体的・心理的・社会的特徴 2)健康問題と看護 ①女性生殖器疾患 ②精神疾患 ③骨粗しょう症 ④更年期女性のうつ	講義	授業内容をノートにまとめる	
6		7. リプロダクティブヘルスケア 1)家族計画と受胎調節法 2)性感染症 ①淋菌 ②梅毒 ③性器クラミジア ④性器ヘルペス ⑤HIV感染症とエイズ ⑥カンジダ症 ⑦膣トリコモナス症	講義	授業内容をノートにまとめる	
7		3)性感染症の罹患状況と予防法	講義	授業内容をノートにまとめる	
8	課題を調べる	8. 女性の健康課題についてグループでまとめる ①HIVに感染した女性の看護 ②人工妊娠中絶と看護 ③喫煙女性の健康と看護 ④性暴力を受けた女性の看護 ⑤児童虐待と看護	演習 グループワーク	授業内容をノートにまとめる	
9	資料作成発表準備		演習 グループワーク	授業内容をノートにまとめる	
10	資料作成発表準備	グループ発表(課題をグループごとに発表する)	演習 グループワーク	授業内容をノートにまとめる	
評価方法		講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する			
教科書		医学書院:系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院:系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 メディックメディア:病気がみえるvol. 9 婦人科・乳腺外科			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
ライフサイクル期の母性看護学	2年次	前期	1	30	永山

授業概要

女性のライフサイクル各期における健康と健康障害について学ぶ。主な教授内容として、女性の健康と健康障害を身体的・精神的・社会的側面から捉え、治療と看護について学ぶ内容とする。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
11	妊婦ジャケットを着用して生活する ①食事 ②排泄 ③睡眠	妊娠期の身体的特徴の理解と妊娠健診 1. 妊娠期とは 2. 妊娠の成立と妊娠の診断 3. 母体の変化 4. マイナートラブル	講義	授業内容をノートにまとめる
12		妊娠期の心理的・社会的特徴と母親役割取得過程の理解 1. 心理的特徴 2. 母親役割の取得過程 3. 社会的特徴(家族の役割・父親の心理・子どもの心理)	講義	授業内容をノートにまとめる
13		妊娠期の看護 1. 妊娠期の看護目標 2. 健康診断 3. 保健指導	講義	授業内容をノートにまとめる
14		保健指導についてグループでまとめる 食事・睡眠・休息・運動・排泄・衣生活・清潔 社会制度・育児用品・母乳栄養・分娩準備教育	演習 グループ ワーク	授業内容をノートにまとめる
15		保健指導の実施 食事・睡眠・休息・運動・排泄・衣生活・清潔 社会制度・育児用品・母乳栄養・分娩準備教育	演習 グループ ワーク	授業内容をノートにまとめる
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する			
教科書	医学書院:系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 中央法規出版:新看護観察のキーポイントシリーズ 母性 I メディックメディア:病気がみえるvol. 9 婦人科・乳腺外科			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
周産期の母性看護学	2年次	後期	1	20/30	永山

<p>授業概要</p> <p>母性としての営みの顕著なマタニティサイクルにある女性と新生児、そしてその家族を対象とし、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象が健全にそして安全に成長・発達するための看護を学ぶ。</p>

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
1	教科書の該当するところを読んでおく	分婛期経過と胎児の健康状態 1. 分婛の3要素(娩出力・産道・娩出物) 2. 分婛の経過(分婛第1期～第4期・フリードマン曲線) 3. 産婦と胎児の健康状態のアセスメント(母体の変化と胎児に与える影響)	講義	授業内容をノートにまとめる
2	教科書の該当するところを読んでおく	産婦と家族の心理 1. 産婦の心理と・社会的変化 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント	講義	授業内容をノートにまとめる
3	教科書の該当するところを読んでおく	分婛期の看護 1. 分婛期の看護目標(分婛各期の看護援助) 2. 産婦の基本的ニーズと看護 3. 産痛緩和のための身体的ケア	講義	授業内容をノートにまとめる
4	教科書の該当するところを読んでおく	新生児の生理と看護 1. 胎児と新生児の違い(胎児循環・新生児循環) 2. 身体的整理の特徴 3. 新生児の機能	講義	授業内容をノートにまとめる
5	教科書の該当するところを読んでおく	新生児の子宮外生活の適応と看護 1. 出生直後の観察と看護 2. 早期新生児の看護目標と看護 親子関係 1. 児との関係確立への看護	講義	授業内容をノートにまとめる
6	教科書の該当するところを読んでおく	産褥の経過 1. 産褥期とは 2. 母体の変化(退行性変化と進行性変化)	講義	授業内容をノートにまとめる
7		産褥期の心理的社会的特徴の理解 1. 心理的变化の特徴(ルビンの母性論) 2. 児へ愛着形成 3. 社会支援	講義	授業内容をノートにまとめる

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
8	教科書の該当するところを読んでおく	産褥期の看護 1.産褥期の看護目標 2.看護援助方法 ・生殖器・全身の復古を促す ・乳汁分泌を促す ・母乳栄養を確立する ・日常生活への援助 ・母親役割取得を促す ・家族役割変化を促す ・関係性を促す	演習 グループ ワーク	授業内容をノートにまとめる
9	教科書の該当するところを読んでおく	異常時の看護 1.妊娠期の異常時の看護 切迫流早産・妊娠高血圧症候群 2・分娩期の異常時の看護 異常出血・帝王切開	演習 グループ ワーク	授業内容をノートにまとめる
10	教科書の該当するところを読んでおく	ハイリスク褥婦・新生児の看護 1. 子宮復古不全・乳腺炎・産褥熱 2. 死産・障害をもつ新生児を出産した親の看護	講義	授業内容をノートにまとめる
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する			
教科書	医学書院:系統看護学講座 母性看護学(2) 母性看護学各論 中央法規出版:新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ 中央法規出版:新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ メディックメディア:病気が見えるvol. 10 産科			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
周産期の母性看護学	2年次	後期	1	10/30	岩瀬

授業概要

母性としての営みの顕著なマタニティサイクルにある女性と新生児、そしてその家族を対象とし、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、対象が健全にそして安全に成長・発達するための看護を学ぶ。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習
11	教科書の該当するところを読んでおく	ハイリスク妊婦 1. 妊娠経過の健康逸脱 流産、早産・常位胎盤早期剥離・前置胎盤・妊娠高血圧症候群・妊娠悪阻・多胎妊娠 2. 合併症 甲状腺機能亢進症・心疾患・糖尿病(妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠)	講義	授業内容をノートにまとめる
12	教科書の該当するところを読んでおく	ハイリスク妊婦 1. 感染症(TORCH症候群) 2. 胎児の発育異常 3. 出生前診断	講義	授業内容をノートにまとめる
13	教科書の該当するところを読んでおく	ハイリスク産婦 1. 分娩経過の健康逸脱 陣痛の異常(微弱陣痛・過強陣痛) 産道の異常(CPD・帝王切開の術式) 2. 分娩経過の健康逸脱 娩出物の異常(胎児機能不全) 3. 前期破水 4. 分娩時の異常出血(産科出血)	講義	授業内容をノートにまとめる
14	教科書の該当するところを読んでおく	ハイリスク褥婦 1. 産褥期の健康逸脱 (肺塞栓症・産褥熱・乳腺炎・産後うつ)	講義	授業内容をノートにまとめる
15	教科書の該当するところを読んでおく	ハイリスク新生児 1. 新生児の診断と治療 早産児・低出生体重児・巨大児・新生児仮死 分娩外傷(帽状腱膜下出血・顔面神経麻痺・腕神経叢麻痺・鎖骨骨折) 核黄疸・感染症・先天性奇形	講義	授業内容をノートにまとめる
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する			
教科書	医学書院:系統看護学講座 母性看護学(2) 母性看護学各論 中央法規出版:新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ 中央法規出版:新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ メディックメディア:病気が見えるvol. 10 産科			

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
母性看護学方法論	2年次	後期	1	15	岩瀬

授業概要					
母性看護に特有な技術の習得とウエルネス看護過程について学ぶ。主な教授内容は、事例を通して、周産期の看護技術の原理、目的、方法、留意点を理解して技術を習得し、フィジカルアセスメントから必要な援助を考える内容とする。					
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1	周産期の母性看護学の復習	看護過程(ウエルネス看護過程)について(事例を提示)	講義	課題の実施	
2	周産期の母性看護学の復習	妊娠期の看護 事例から情報を収集し、必要な援助を考える 技術演習(子宮底・腹囲測定・妊娠週数の算出)	演習	グループで話しあい、まとめる	
3	周産期の母性看護学の復習	妊娠期の看護 事例から情報を収集し、必要な援助を考える	演習	グループで話しあい、まとめる	
4	周産期の母性看護学の復習	分娩期・早期新生児の看護 事例から必要な援助を考える	演習	グループで話しあい、まとめる	
5	周産期の母性看護学の復習	産褥期の看護 事例から必要な看護を考える	演習	グループで話しあい、まとめる	
6	周産期の母性看護学の復習	産褥期の看護 事例から必要な看護を考える	演習	グループで話しあい、まとめる	
7	技術の本を讀んでくる	技術演習 (乳頭・乳房マッサージ・授乳技術・産褥体操など) (子宮底・腹囲測定・妊娠週数の算出)	演習	ノート作成	
8	技術の本を讀んでくる	技術演習 分娩期のロールプレイング、新生児の沐浴・身体計測 バイタルサイン測定・観察	演習	ノート作成	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・テスト・提出物で総合的に評価する				
教科書	講師資料 講師指定のもの				

授業科目	開講期	開講年次	単位数	時間数	講師
精神看護学概論	後期	1年次	1	30	柴田

授業概要

精神看護の意義と役割について理解する。こころの健康とは何か、こころの発達と健康について考えそれに影響を及ぼす因子を理解する。精神看護の歴史的変遷を学び、精神保健における現状の問題や課題を考える。

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書を読んでおく	<p>授業目的 精神看護学で学ぶことは何か(精神保健の視点から精神の健康を理解し、予防や入院治療から地域生活ケアへの移行という精神看護に触れる)</p> <p>1. 精神保健 1)精神障害と精神保健 2)日本の精神保健医療政策と方向性</p> <p>2. 精神的健康の保持・増進としての精神保健 1)精神の健康とは 2)精神の健康を要因 3)ストレスマネジメント 2)リカバリーを基軸とした精神医療 4)障害者権利条約</p>	講義
2	教科書を読んでおく	<p>授業目的 精神看護学で学ぶことは何か(精神保健の視点から精神の健康を理解し、予防や入院治療から地域生活ケアへの移行という精神看護に触れる)</p> <p>3. 地域精神保健 1)入院医療中心から地域生活中心へ 2)第一次予防・第二次予防・第三次予防</p>	講義
3	教科書を読んでおく	<p>授業目的 脳の構造を学び認知機能等高次脳機能について理解し、精神(心)の構造と働きについて理解する。</p> <p>1. 脳の構造と認知機能 1)脳・神経系の構造 2)認知機能と神経基盤 3)大脳皮質の機能区分</p>	講義
4	教科書を読んでおく	<p>授業目的 脳の構造を学び認知機能等高次脳機能について理解し、精神(心)の構造と働きについて理解する。</p> <p>2. 精神(心)の構造と働き 1)精神力動理論 2)深層心理学 3)自我心理学</p>	講義
5	教科書を読んでおく	<p>授業目的 人間の心の発達過程について、代表的な理論から理解する。</p> <p>1. 精神(心)の発達に関する主要な考え方 1)エリクソンの発達理論 2)ボウルビイの愛着理論 3)乳幼児期の発達理論(マラー・スターン) 4)マズローの欲求5段階 5)ピアジェの認知発達論</p>	講義
6	教科書を読んでおく		講義
7	教科書を読んでおく	<p>授業目的 家族の役割や機能を学び、家族が精神(心)に与える影響について理解する。</p> <p>1. 家族と精神(心)の健康 1)家族とは 2)夫婦関係 3)親子関係 4)家族ライフサイクル 5)家族システム</p>	講義
8	教科書を読んでおく		講義

回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法
9	教科書を読んでおく	授業目的 学校や職場、生活の場である地域の果たす機能を知り、それぞれの負の側面を理解して、健康づくりの在り方について学ぶ。 1. 暮らしの場と精神(心)の健康 1)学校と精神(心)の健康 2)職場・仕事と精神(心)の健康 3)地域における生活と精神(心)の健康	講義
10	教科書を読んでおく		講義
11	教科書を読んでおく	授業目的 医療を受けるということは、普段の生活での対処方法では賄いきれない危機であるという認識をもって精神障害をもつ人の危機の適応とセルフマネジメントについて学ぶ。 第5章 精神(心)の危機状況と精神保健 1)危機状況とは何か？(危機理論・危機モデル) 2)ストレスとコーピング 3)適応と不適応 4)セルフマネジメント	講義
12	教科書を読んでおく		講義
13	教科書を読んでおく	第6章 現代社会と精神(心)の健康 1)現代社会の特徴(社会構造の変化と社会病理) 2)社会病理現象 ①ドメスティックバイオレンス ②職場におけるハラスメント ③児童虐待 ④いじめ ⑤ひきこもり ⑥不登校 ⑦自殺 ⑧自傷行為 ⑨アルコール問題 ⑩薬物問題 ⑪ギャンブル依存 ⑫依存 ⑬犯罪・飛行	講義
14	教科書を読んでおく		講義
15	教科書を読んでおく	第7章 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 1)精神医療の歴史 ①諸外国における精神医療の歴史と現在 ②日本における精神医療の歴史と現在	講義
	評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。	
	教科書	メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論/精神保健	

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
精神に障害のある人の看護	2年次	前期	1	10/30	山口

授業概要
 精神看護学の対象について医学的な視点を通して学ぶとともに、対象者および家族の援助についてその予防やリハビリテーション、社会資源の活用を学ぶ。

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
1	第1章 教科書p2～4 第2章 教科書p22 ～42	第1章 I「精神(心)を病む」とはどうか 第2章 I 精神(心)の働きと精神症状・状態像:精神 障害を持つ人の抱える症状	講義
2	第2章 教科書p42 ～58 第3章 教科書p64～8 0	第2章 II 精神科的診察 ①診察 ②一般検査・画像検査 ③心理検査 第3章 1. 精神疾患/障害の診断基準・分類 2. 主な精神疾患/障害 ①神経発達症群/神経発達障害群 ②統合失調症スペクトラム障害 ③双極性障害及び関連症候群	講義
3	第3章 教科書p81 ～110	第3章 2. 主な精神疾患/障害 ④抑うつ症候群 ⑤不安症群/不安障害群 ⑥強迫症および関連症群/強迫性障害 ⑦心的外傷およびストレス	講義
4	第2章 教科書p110 ～120	第3章 2. 主な精神疾患/障害 ⑧解離症候群 ⑨身体症状症および関連症群 ⑩食行動障害および摂食障害群 ⑪睡眠覚醒障害群	講義
5	第2章 教科書p121 ～144	第3章 2. 主な精神疾患/障害 ⑫物質関連障害および嗜癖性障害群 ⑬神経認知障害群 ⑭パーソナリティ障害群 ⑮てんかん	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護		

授業科目	開講年次	開講期	単位数	時間数	講師
精神に障害のある人の看護	2年次	前期	1	20/30	辰口

授業概要

精神看護学の対象について医学的な視点を通して学ぶとともに、対象者および家族の援助についてその予防やリハビリテーション、社会資源の活用を学ぶ。

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書②p4 ~20	第1章 Ⅱ 精神障害と差別 ①スティグマ ②障害者差別の解消に向けて Ⅲ 精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているか Ⅳ 精神障害と共に生きる	講義
2	教科書②p190 ~201	第5章 精神障害を持つ人と「患者-看護師」関係の構築 Ⅰ 精神障害をもつ人とのかかわり方 ①「患者-看護師」関係の目指すこと ②「患者-看護師」関係を理解するための手がかり ③関係構築にあたっての基本的な態度 ④患者とのかかわりで起こりうることの対処	講義
3			講義
4	教科書②p201 ~211	第5章 精神障害を持つ人と「患者-看護師」関係の構築 Ⅱ 精神障害をもつ人とのコミュニケーション ①コミュニケーションとは ②精神障害をもつ人のコミュニケーションの特徴 ③コミュニケーション技法	講義
5	教科書②p211 ~218	第5章 精神障害を持つ人と「患者-看護師」関係の構築 Ⅲ 精神障害をもつ人との関係の振り返り ①振り返ることの意味 ②プロセスレコード ③プロセスレコードの書き方と振り返りの実際	講義
6			講義
7	教科書②p254 ~269	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅰ 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮 ①精神科看護における安全管理 ②病棟環境の整備 ③自殺・自殺企画・自傷行為 ④攻撃的行動・暴力・暴力予防プログラム ⑤離院 ⑥隔離・身体拘束 ※拘束の体験	講義
8			講義 演習
9	教科書①p226 ~270	第7章 精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 Ⅰ 精神医療の歴史 Ⅱ 精神障害を持つ人を守る法・制度 Ⅲ 精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇 ①入院医療の形態 ②入院患者の処遇と権利擁護	講義
10			講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 精神看護学①精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護		

授業科目 精神看護学方法論	開講年次 2年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 30	講師 堀江
------------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要

精神看護学における対象の理解と精神障害によってもたらされる生活の変化と看護について理解する。生活障害における看護の役割を学ぶ。

回	教科書頁	授業計画・授業内容	授業方法
1	教科書②p234 ～244	第6章 精神障害をもつ人への看護援助の展開 Ⅱ 精神障害をもつ人のセルフケア援助 1)セルフケアとは 2)精神看護実践におけるセルフケア理論尾適用 ①急性期におけるセルフケアの援助 ②回復期におけるセルフケアの援助 ③慢性期におけるセルフケアの援助 ④退院時のセルフケアの援助 ⑤地域生活におけるセルフケアの援助	講義
2	教科書②p244 ～251	第6章 精神障害をもつ人への看護援助の展開 Ⅲ 精神障害をもつ人のセルフマネジメント 1)セルフマネジメントの背景 ①患者によるセルフマネジメント ②セルフマネジメントの発展 ③患者-医療者関係者からみたセルフマネジメント 2)セルフマネジメントのための疾病教育 ①疾病教育の発展 ②構造化されたプログラム 3)服薬自己管理 4)当事者によるセルフマネジメント	講義
3	教科書②p270 ～289	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅱ 精神疾患/障害をもつ人への看護 1)統合失調症をもつ人への看護 ①急性期の疾患特徴と看護 ②回復期の疾患特徴と看護 ③慢性期の疾患の特徴と看護 2)妄想性障害の特徴と看護	講義
4	教科書②p289 ～311	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅱ 精神疾患/障害をもつ人への看護 3)双極性障害の特徴と看護 4)うつ病の特徴と看護	講義
5	教科書②p311 ～323	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅱ 精神疾患/障害をもつ人への看護 5)アルコール依存症の特徴と看護 6)認知症の特徴と看護	講義
6	教科書②p312 ～323	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅲ 精神疾患/障害をもつ子どもへの看護 1)自閉症スペクトラム障害 2)注意欠如・多動性障害の特徴と看護	講義
7	教科書②p324 ～333	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅲ 精神疾患/障害をもつ子どもへの看護 3)強迫性障害の特徴と看護 4)神経性やせ症摂食制限型	講義
8	教科書②p333 ～348	第7章 精神障害をもつ人への看護 Ⅳ 身体疾患を合併している患者の看護 1)精神疾患とがんの合併 2)精神疾患と肺炎の合併 2)精神疾患と骨折の合併	講義

回	教科書頁	授業計画・授業内容	事後学習
9	教科書②p167 ～166	第4章 精神疾患の主な治療法 I 薬物療法 II 電気けいれん療法	講義
10	教科書②p148 ～185	第4章 精神疾患の主な治療法 IIIリハビリテーション療法 IV精神療法	講義
11	教科書②p352 ～372	第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 I 地域生活の再構築と社会参加 1)日本における精神障害者へのケアシステムと支援に関する法制度 ①精神障害にも対応した地域包括ケアシステム ②障害者総合支援法による自立支援給付と地域生活支援事業 2)地域生活への移行と生活支援 ①生活の場づくりと日々の生活の立て直し ②生活の場を中心とする疾患管理 3)社会参加への支援 4)当事者の力を生かす相互支援 5)誰もが暮らしやすい地域づくり	講義
12			講義
13	教科書②p381 ～418	第8章 精神障害をもつ人の地域における生活への支援 II 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際 1)長期入院患者の地域生活への移行支援 2)訪問看護をとおした地域生活支援 3)就労支援 III精神障害をもつ人をケアする家族への支援 I)精神障害の家族への影響 2)家族への支援	講義
14	教科書②p439 ～438	第9章 日本の精神看護の発展 Iリエゾン精神看護 1)リエゾン精神看護とは 2)リエゾン精神看護活動 3)リエゾン精神看護のケアの実際	講義
15	教科書②p424 ～458	第9章 日本の精神看護の発展 II 司法精神医療と看護 1)司法精神医療と司法精神看護 2)触法精神障害者の処遇としての司法精神医療 3)暴力被害者の支援としての司法精神看護	講義
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物・テストで総合的に評価する。		
教科書	メヂカルフレンド社:新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護		

授業科目 精神の看護過程	開講年次 2年次	開講期 後期	単位数 1	時間数 15	講師 張替
-----------------	-------------	-----------	----------	-----------	----------

授業概要					
老年期に罹患しやすい疾患の事例を用いて看護過程の展開について学ぶ。					
回	事前学習	授業計画・授業内容	授業方法	事後学習	
1		プロセスレコードとは 記載方法、活用方法	講義	周囲の人とのやり取りの場面をプロセスレコードに起こし書いてみる	
2	1年次の看護過程を復習しておく	精神の看護過程について －事例1－ 統合失調症患者の看護過程『幻聴のある患者の看護』 1. 常在条件・病理的状态の理解 2. 精神看護における情報の整理について (ヘンダーソンの14項目)	講義	プロセスレコードの提出。 提出→修正を繰り返し、プロセスレコードの書き方を理解する	
3	1年次の看護過程を復習しておく	呼吸/飲食/排泄/姿勢/睡眠/衣類/体温/清潔環境/コミュニケーション/信仰/達成感/レクリエーション/学び・発見・好奇心	講義 グループワーク	個人学習 事例において情報を整理する	
4		3. 情報のアセスメント・看護上の問題立案について ①基本的欲求の充足・未充足の判断 (未充足と判断した理由を根拠を用いて明確にする)	グループワーク	発表の準備	
5			発表	まとめ	
6		4. 未充足状態の原因、誘因の分析・解釈 ①分析に使用する情報 ②原因、誘因の分析・解釈 5. 看護上の問題の抽出 ③問題の抽出	グループワーク	発表の準備	
7			発表	まとめ	
8		6. 看護目標(長期目標と短期目標)の立案について 7. 具体策の立案について	講義	まとめ	
評価方法	講義の出席数・参加態度・事前学習・事後学習・提出物で総合的に評価する				
教科書	講師が指定したもの				